

令和6年度第1回島田市地域ケア会議 会議録

開催日時：令和6年7月24日（水）午後7時から午後8時40分まで

開催場所：島田市保健福祉センター 3F 研修室

出席者 【委員】

静岡福祉大学	山城 厚生（会長）
島田市医師会	片岡 英樹（副会長）
通所介護事業所	富岡 昌子
訪問介護事業所	山田 ゆかり
ケアマネットしまだ	橋本 政克
島田歯科医師会	川端 泰三
島田薬剤師会	徳本 英史
静岡県作業療法士会	名波 昭人
島田市民生委員・児童委員協議会	鈴木 幸治
島田市社会福祉協議会	大石 江利子
長寿介護課	安達 義人
島田市自治会連合会	望月 義弘

【専門委員】

地区社会福祉協議会	杉本 静雄
地域ふれあい事業連絡協議会	戸塚 まき江
島田市立総合医療センター	樽松 常彦
島田市訪問看護ステーション	吉田 友美
健康づくり課	山内 健次

【事務局】

健康福祉部長	宮地 正枝
包括ケア推進課課長	大久保 勉
〃 課長補佐	大庭 渡
〃 係長	川本 実子
〃 係長	米澤 美晴
〃 保健師	鈴木 大地
島田市医師会 相談員	紅林 みな子
長寿介護課係長	杉本 健二

【その他】

高齢者あんしんセンター第一	村松 剛
---------------	------

高齢者あんしんセンター第二	大石 鑑子
高齢者あんしんセンター六合	勝又 諒也
高齢者あんしんセンター初倉	遠藤 久哉
高齢者あんしんセンター金谷	杉山 葉子
高齢者あんしんセンター川根	奥川 泰史

#### 1 開会

本会議について原則として公開とし、会議録についても公表することとなる旨を説明

#### 2 委嘱状交付

#### 3 健康福祉部長あいさつ

皆様方には、それぞれのお仕事や日々の活動を通して、市の医療・介護・福祉の充実に、御尽力いただき、御礼申し上げます。加えて、今回、任期2年間の委員をご快諾いただきありがとうございます。

ご承知のとおり、わが国の少子高齢化は急速に進行しており、島田市においても、令和6年6月末現在、人口 94,976 人のうち、65 歳以上の方は 30,696 人、高齢化率は 32.3%、5年前に比べて 1.7 ポイント上昇している。

今後も少子高齢化の進行は継続し、2040 年までは高齢化率の上昇や一人暮らし高齢者の増加から、医療、介護、福祉のニーズは増加していくことが予測されている。

このような状況でも、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるためには、地域における社会資源を効率かつ効果的に活用しながら、医療、介護、住まい、生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の更なる深化・推進が必要。

本日は、昨年度に策定した第 10 次島田市高齢者保健福祉計画等の概要や、地域包括ケアシステムの深化、推進に係る市の取り組みについて、説明します。

日ごろ、様々な専門的な立場からお力添えをいただいている、委員の皆様から、市の高齢者福祉増進のため、忌憚のない御意見をいただくことをお願い申し上げ、挨拶とします。

#### 4 委員及び関係者紹介

各委員・関係者が自己紹介。

#### 5 会長・副会長の選任

会長に山城委員が、副会長に片岡委員が選出された。

#### 6 会長挨拶

先日、市社協が主催の防災関係の講演会を開催した。講師は宮城県の阿部さん。その講演の中の話で、能登半島の津波の時に孫が津波に飲まれ、それを見た祖父が咄嗟に津波の中に入り、泥水で見えなかったが、孫を助け上げた。「助かって回りも良かったし、

祖父も良かった」というお話を聞いて、人間いつどうなるかわからないと感じた。祖父はもしお孫さんが亡くなっていたら、一生悔やむ生涯だったでしょう。私たちは、生きている生涯の中でいろいろなことに巡り合う。しかし、「生きていて良かった」「島田で老後を迎えて良かった」と思えるように。それは祖父や私たちの個人のパワー、個人の生きる力、これはセルフケアで大事なことですが、その環境が整っているかどうか、その環境の厳しい中でも祖父は頑張り孫を助けた。一人一人がいかに生きていくぞという思いを持ちながら生活していくか。熱中症だったら気を付けようというのもそうでしょう。個のケアと、個のケアを守っていくためには、地域のケアが必要。この会議は島田市全体的な会議で、マクロ、グローバルな視点で、より良い島田の環境を作っていくということで、皆様の忌憚のないご意見をいただけたらと思います。

## 7 報告・協議事項

「第10次島田市高齢者保健福祉計画、第9期島田市介護保険事業計画について」

- (1) 計画概要  
※概要版により事務局（長寿介護課）から説明
- (2) 主な取組（介護予防 e-スポーツ、ACP 普及啓発、認知症対策）  
※計画本編より事務局（包括ケア推進課）から説明
- (3) 事前質問に対する回答  
※別紙、意見等集約表一覧により事務局（包括ケア推進課）から説明
- (4) 意見交換

会 長 これから皆さんのご意見、ご質問等を伺います。

委 員 人口減少に対する市の取り組みで、子どもに対する医療費や他地域から島田市に  
来た時の特典など、もう少しわかりやすいと思う。どのような支援が受けられるか。教えていただきたい。

事務局 子どもの医療費助成については、制度改正があり、これまで中学生までだったものが  
高校生までになっている。

会 長 先ほど重層的な支援を考えていきたいと思いますという話がありましたが、包括支援セ  
ンターの相談の中でも、高齢者だけの問題ではなく、ご家族の問題など、入口は高齢  
者の問題であっても、子どもやお孫さんなどの問題もあるのかもしれない。高齢者  
問題と言うものの、少子化問題とつながっているということだと思う。

委 員 先日、里山暮らしラボの会議に参加させていただいたが、その中で、地域的に見て  
いくと、子どもが多い世帯には高齢者が少ない、高齢者が多い世帯には子どもが少な  
い、という傾向が顕著に出ていた。どういうことかということ、子どもが親の面倒を見  
なくなった。一緒に住むことがなくなってしまったように思う。団塊の世代の人たち  
は、子どもの世話になるのは時代遅れということで、子どもと暮らすということがな  
くなってきている。子どもの面倒にはなりたくない、ということだと思うが、実際、子  
どもの面倒にはならなくても、他人の面倒になっている。

できれば、同居する家族、親の面倒を見ている家族には支援、手当、減税等、優遇  
ができないかと感じている。

会 長 民法では、親は子を子は親を見ることになっているはずです。

委 員 事前の質問の中に、「ACP と AD（アドバンス・ディレクティブ・リビングウィル）の違いがはっきりわからない、ACP の普及啓発の必要性は十分理解できるが、言葉として意味が曖昧な印象を受ける」ということで、今一つピント来られてない方に、補足説明させていただく。

以前、島田市の在宅医療推進協議会でリビング・ウィルを 2000 部、3000 部作製し、配布したが、書いた人は 2%。ほとんど活用している人はいない。このリビング・ウィルの活用法がこれまで課題となっていた。アメリカで 1990 年代にリビング・ウィルが盛んになってきたが、結果的に上手く行かず、そこから ACP という概念が出てきている。リビング・ウィルの課題 1 つ目は、持っているが、書いていない。2 つ目は、書いたけど家族がどこにしまっただけか伝わっていない。3 つ目は、リビング・ウィルを書いた日付が 2 年前。これを信じて良いものかという疑問が出てくる。そういうところからリビング・ウィルの不完全さが取り沙汰され、これらの課題から ACP という概念が出てきた。つまり、人の気持ちは変わっていくが、支援するみんなでも共有する、リアルタイムでアップデートした本人の気持ちを共有することが一番大事と言われている。

先日、医療者の集まりで、このリビング・ウィルをいろいろな所に置いたらどうかという話し合いの際、先生方は、置いたから良いというものではなく、話し合うことが大切ということで、いろいろな所へ置くことに賛同を得られなかった。

このため、ACP をしながら、周囲に周知できた状態でリビング・ウィルをみんなと一緒に書くのが効果的なように感じている。

会 長 1 年前、身内にこのリビング・ウィルを書いてと渡したが、なかなか書かいてくれなかったため、書くように言ってしまった。追い詰めてしまっているようで、良くないと感じた。本人は、しなくてはいけないと思っても、行動に移すまでには時間がかかるものだと感じた。

委 員 医療・訪問介護の関係で、在宅で訪問サービスに入った時に、訪問看護や訪問診療、入浴等さまざまな事業所との連携があると思いますが、在宅でその人らしく最期まで過ごせるといふところを考えると、そこに重点を置いていくのもいいと思う。

委 員 応援隊という事業名で市内 5 箇所、生活支援サービスを実施している。すべて住民主体の活動となっている。月平均 120 件ほどで、ゴミ出しや草取り等を行っている。在宅で 1 人生活していきたいという思いを叶えてくれているのがこの事業とっている。応援隊をやっていく中で、近所の助け合いさえあれば、この組織はいらないと感じているところもある。紹介として、第一小学校区の地区で数年前から防災台帳以外に、平時の支援として、毎年度個別のカードで支援してほしい人はマルを書いて、組単位で把握をしている取り組みがあります。困りごとなど支援してほしいことを書いて組長さんへ提出しますが、それによって、災害時の避難をサポートする際、隣近所で誰が行くのか、継続的に行くのか、というしくみと、毎回話し合いをする機会を設けて、その時に今の状態や組全体の状況が確認できるため、とても良い取り組みと感じている。このような地域づくりを他の地区にも伝えていきたいと思う。いろいろな情報が伝わっていないことが多いと感じているため、それぞれの現場で行われている活動や取り組みが生かされる情報共有がしくみとして大事と感じる。

冊子の 32 ページに第一地区社協が抜けているため、加えていただきたい。

会 長 島田市全体の福祉活動をどうしていくかというのは島田市社会福祉協議会、各学区区当たりのケア、住民福祉を考えていくのが地区社協ということになる。

委 員 社協のテリトリーと包括ケアのテリトリーの線引きが上手く行っているか気になる。混載していて、結局効果を上げてない部分があるのではないかとすみわけを検討

してみるのも必要かと思う。

この高齢者福祉計画はなかなか読み込めない。何を言おうとしているのか、すぐに理解することが難しい。総論はありますが、各論が何か、具体的に何をやろうとしているのか見えづらいように感じる。

事務局 この計画は3年ごとに作成しており、総論部分が厚くなっている。具体的な内容としては P74、75 がわかりやすい。より分かりやすく伝わるような内容になるよう、記載内容、標記の仕方等は検討していきたいと考えている。

社協と地域包括ケアのテリトリーについては、市社協、地区社協、包括ケア推進課、地域包括支援センター（高齢者あんしんセンター）それぞれ、エリアはありますが、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指すというところは共通であるように思う。テリトリーというのは深く考えなくてもいいと思う。ご意見があれば、どの機関でもお話しいただければ、関係機関で連携していく。

先ほどの子ども医療費の件ですが、令和5年10月から入院・通院の自己負担はなしとなっている。入院時の食事の費用はかかる。

委員 補足ですが、高齢者保健福祉計画は3年に1度改定され、この3年間で特に重点的に行うものが P77～79 に記載されている内容です。2040年に向けて後期高齢者の人口が増えていき、要介護認定率も高くなっていく中で、対策を取っていく。まずは、この3年間でこのようなこと（P77～79）に力を入れてやっていく。

委員 ふれあい事業を初倉地区でやっているが、エンディングノートについて興味があったため、その会に持っていくと、1冊くらいしか持っていく人がいなかった。時期が早かったのかもしれないが、勧めていくには説明が必要と思う。市からふれあいの会に来て説明してほしい。

e-スポーツに参加して楽しいと思い、地区に持っていった。地区でも20人くらい集まるが、高齢者には難しい。とってもいいことと思うが、現場に行くとうまくいかない。85歳以上の高齢者にはリズムに乗って太鼓を叩くというのは難しく感じる。もう一歩踏み込んでほしいと思う。

事務局 e-スポーツを初めて体験した高齢者で、最初から達成する人はなかなかいない。7割くらいの方がクリア失敗する。継続して少しずつ新しいことにチャレンジしていくと、出来るようになり、楽しくなってくる。すべての人が楽しくというのは難しいが、介護予防の施策の一つのとして、ツールとしてやっているところもあるため、御理解いただきたい。こちら皆さんが楽しくできるよう丁寧に実施していきたい。

事務局 補足ですが、e-スポーツ、リビング・ウィル（エンディングノート）については、市が地域に出向いてお話をする出前講座がありますので、御連絡をいただければ説明に伺います。e-スポーツであれば実際やっていただくよう機械とモニターを持って行きますので、お気軽にお声掛けいただければと思う。

会長 島田市では、e-スポーツやしまトレなど、いろんな工夫をされてやっているというのは確かだと思う。

委員 e-スポーツをやっていることを今回初めて知った。リハビリの現場でもゲームを取り入れている。最近、流行っているのが VR。ゴーグルを付けて仮想空間でリハビリをやることも増えてきている。体を動かして運動するのもとても大事ですが、体を動かしながら視覚的な効果で、より頭を使う VR が人気。実際、使うとその中でゲームをして酔ってしまうことなどもあり難しいところもあるが、観光地の映像を観て、実際行かなくても行った気分になれる。昔はそこに行ったけど、今は年を取って行けない、また行ってみたいという人もいます。昔を思い出し、昔、行って感動したところへまた行ってみたいということもあると思う。昔、行ったところの景色を見たり、

いろんな風景を見たりして、運動だけではなく、認知症予防にもつながると思う。個人的な感想と最近の流行りですが、また検討していただければと思う。

会 長 島田市では、介護予防の活動が上がれば、医療・介護費用が下がっている、という傾向が他と比べると、見られると感じている。

委 員 島田市では、リビング・ウィルの普及を早期から行っていた。以前と比べると、人工呼吸器をつける人がかなり少なくなり、延命治療に関する考え方が変わってきたように感じる。緩和ケアも普及されてきたため、最期をどう過ごしたいかを皆さんが考え始めるようになったのではないかと、最近の現場を見て感じている。

会 長 以前、県に勤めており、健康福祉の視点に立った際、受診率、子どもの活動、障害者へのケア等、この周辺では藤枝市が頑張っているという印象であった。そういう意味では、島田市もっと頑張ればと思ったりしたが、地域でのいろいろな活動等から、島田市も頑張っていると感じる。実際そういう人と触れる立場になったため、そう思うかもしれませんが、効果が出てきていると感じている。もっと進んでいくと、福祉で言うと措置費が少なくなる、医療で言うと医療費が少なくなる。ただ、費用のためにやるのではなく、一人の健康のために、一人の命のためにやっていく。e-スポーツの話が出たが、e-スポーツがいいという人もいれば、昔の歌を歌ったり、旅行先の風景を見たり、回想療法がいいという人もいる。はっきりしていることは、一人(個)。一人の命で、一人の健康。その人に焦点を当てていかないと、e-スポーツがあるからe-スポーツに焦点を当てようというのは無理な話し。ちょうどまくミットすればいいが、私たちはミットするような仕事、ミットさせるような役割がある。「この人にはこれがいい」というのが大事と思ったところです。

最後に、この計画に私も関わった一人です。計画を作るときに申し上げたのは、計画倒れにならないように、市民の目に見えるような、これが良かったと感じうるような、パーフェクトは難しいが、「やってる」ということが、一つずつ増えていくといいと感じた。そういう意味で、厳しいと思うのは、基盤整備。基盤整備の中でも、制度を作ったり、地域密着の施設を考えたりしていこうということが書いてある。建物ができたとか、ルールはできたが、実際にそこで介護の仕事をする人、ケアマネジャーがいない。建物ができてもそこに担当の人がいない。人材の問題で、サロンの担当者も数年前から始めたが、これからが心配。応援隊も頑張ってるが、仲間になってくれる人が難しい。活字の中では、そういうことに努めますということだが、実際、人材については、ここだけでなく、学校教育や地域など、いろいろな皆さんの協力を得ながらやっていかないといけない。それを仕事としてやるためには、ペイを上げるしかない。それくらいまで考えないといけないと思っている。ACPの必要性、これをどうムードアップさせていくか。というところだと思っている。

ぜひ、この第10次高齢者保健福祉計画ができたわけですから、これを見える化、どうチェックしていくか、皆でチェックをしていくということが大事と思ったところです。

事務局 本日は熱心なご協議をいただきまして誠にありがとうございました。

本日皆様方からいただきました、ご意見を参考に2つの計画について推進をしていきたいと考えております。推進をするにあたっては、各機関、団体等々、連携・交流をしながらつなぎ合わせていきたいと考えております。

本会議の第2回目は2月頃を予定しています。それまでに、本日もいただきましたご意見を踏まえまして、テーマを決めて御協議いただければと思います。

以上を持ちまして、令和6年度第1回島田市地域ケア会議を終了いたします。